

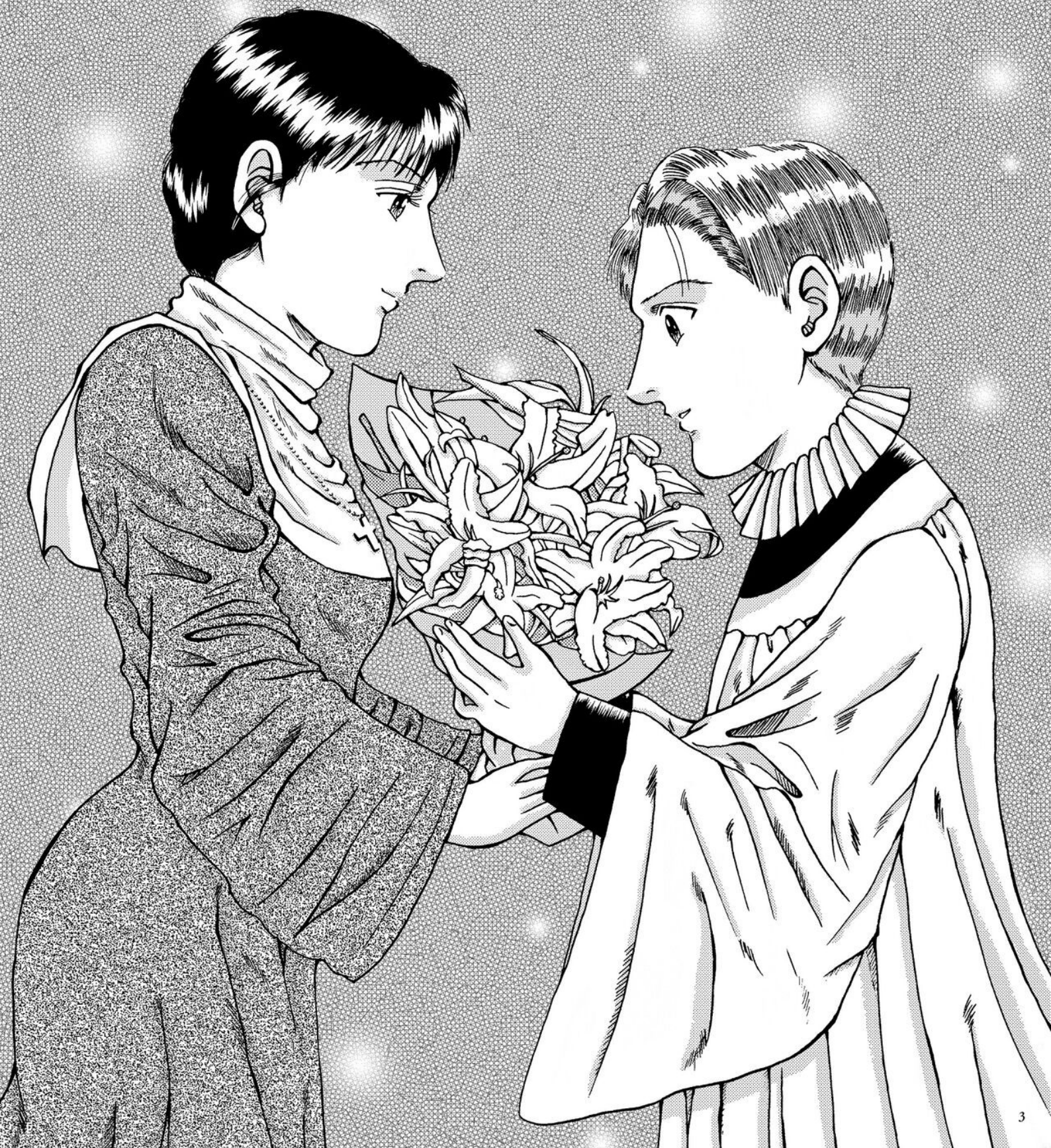
Lil'ioch

～白百合の花～



Lilíoch

～白百合の花～



【NOTE】

- ・修道女（シスター・イーファ）と聖歌隊の少年（ローナン）の相思相愛イチャラブ。詩的な雰囲気です。誤魔化してありますが（？）、性描写があるので成人向けです。
- ・次ページのあらすじはあくまで雰囲気を出す為の文章ですので、いろいろと間違っている可能性があります。
- ・登場人物二人は普段は英語で会話していますが、危ない話しは万が一盗聴されたり（！？）周りに聞かれてもわからないように、タイトルと同じゲール語でしている設定です（ゲール語はアイルランドの第一公用語ですが、結局皆英語で話しているから話せる人が非常に少ないのだとか）。

※ 何も考えずに読んでいただいても全然構わないのですが、設定をしたので以下に書いておきます。フィクションですが現実世界に近いので、以下現実と異なる点にご注意下さい。

- ・宗派は架空。カトリック教会から派生したサクリティー教会（Sacrity。Sacris と Trinity からなる造語）という設定。修道者の恋愛感情はOKだが、誓願はカトリックと変わらないので性的行為については非推奨（表向きは…）。ただ恋愛OKということで、若い志願者・修道者が増えている。
- ・国は英国（仮）。しかしいろいろと現実より緩い設定。
- ・二人の出身国のアイルランドは、現実世界と変わらない設定。シスター・イーファがローナンとの関係に気後れするのは、彼女がもともとカトリックからの改宗組であることと、アイルランドの倫理観が意識的にある為。
- ・シスター・イーファはサクリティー神学を学ぶ為にアイルランドから英国（仮）の同系列修道院に派遣されている。今のところ国に戻る予定はない。
- ・ローナンは両親の仕事の都合で10才から英国住まい。
- ・あくまでフィクションですが、シスターを悩ませつつもなるべく罪の意識から解放しようと思った結果、こんな設定にするしかありませんでした！

Lilíoch —White Lily—

Synopsis

Rónán Pádraig Ó Mordha is a 13 year old Irish boy who is the head chorister of the cathedral. One day, he met a beautiful 24 year old Irish nun named Aoife Treasa Ní Siodhachain at the cathedral. He fell in love with her and she was fascinated by him, but he was still a minor and she was a nun, so there was no romantic touch and they never even kissed each other's lips.

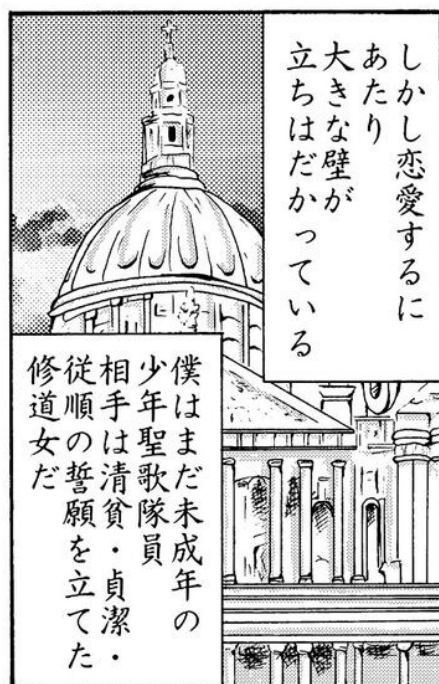
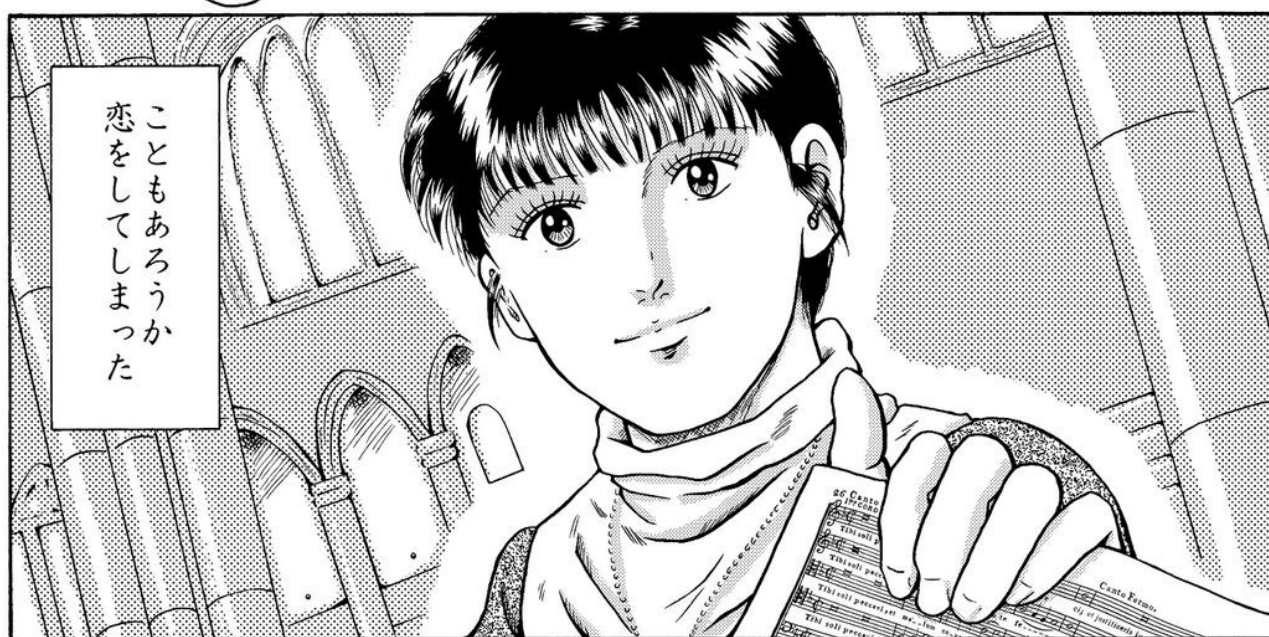
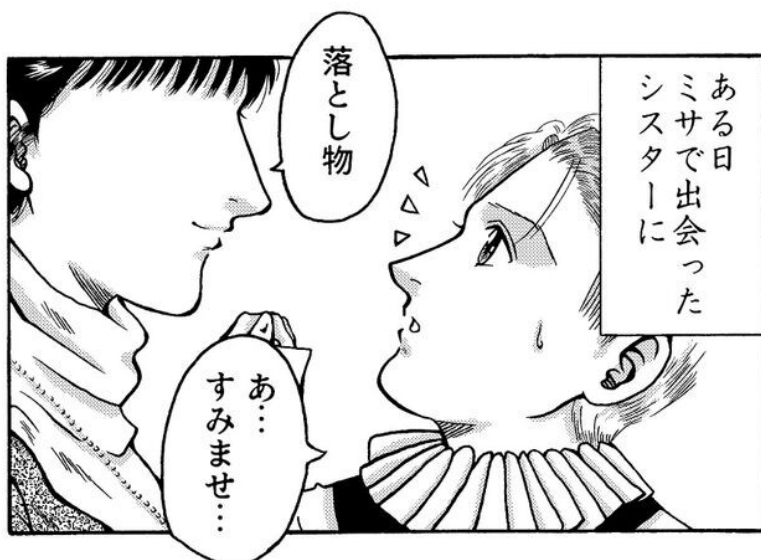
But Rónán wants to do naughty things with her, so he confesses to her about it. Aoife was a little embarrassed to hear that, but she held his hand and took him to the Music Practice Room. — The room can be locked from the inside so that the gasping voice cannot be heard from the outside. In the Music Practice Room, she said, "Cha dhéanaim tada (I do nothing)." And when Rónán tried to confirm the meaning of that, Aoife continued, "Ach is féidir leat é a dhéanamh más mian leat (But you can do it if you want)." and stared at him with a gentle smile. Upon hearing that, Rónán kissed Aoife's lips and inserted his tongue into her mouth. In addition, he tasted her saliva like sweet honey and sucked her tongue violently. Aoife felt it was very sexual, but she didn't stop him from doing so.

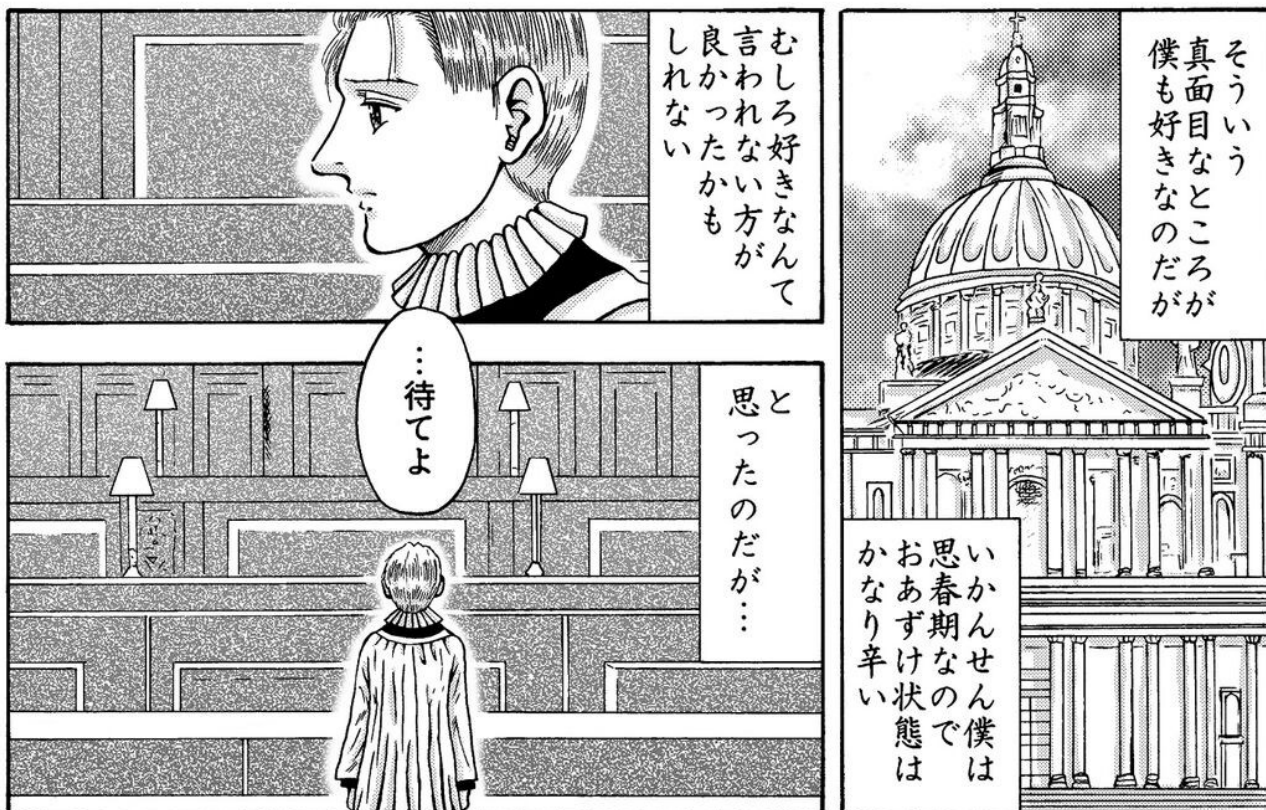
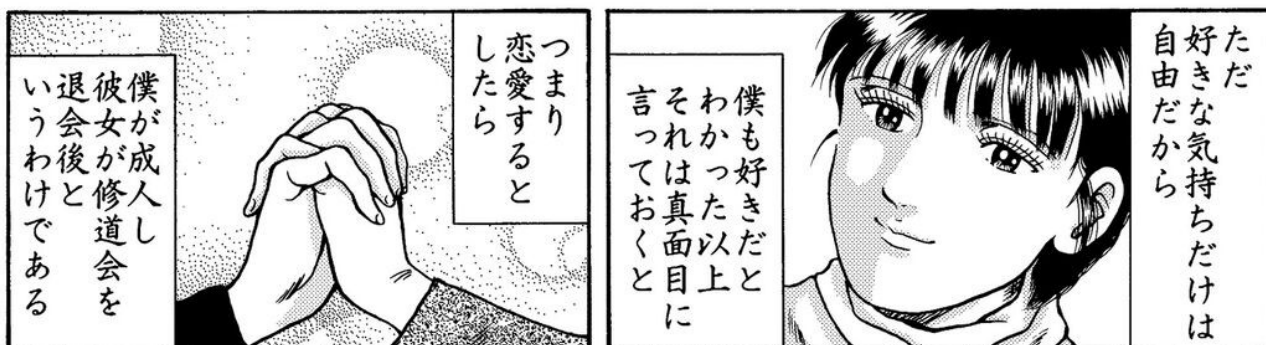
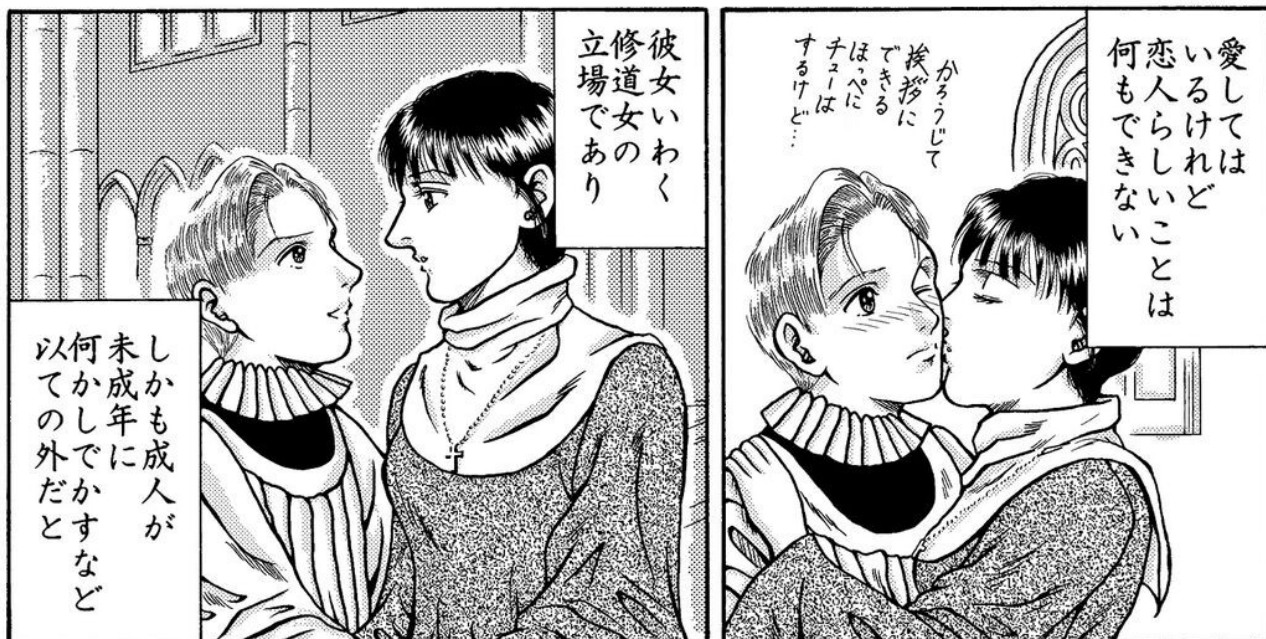
Then he asked her "Suigh ar an tolg le do thoil, An tsiúr Aoife? (Please sit on the couch, Sister Aoife?)". And after Aoife sat on the couch, Rónán stripped Aoife's panties, he saw the realm of her solemn virginity, and gently but suddenly licked it with his tongue. Aoife gasps, unable to withstand her stimuli, grasps Rónán's head firmly with her hands and entrusts herself to his caress. Of course, she was confused as to why he did this, but at the same time she felt her pleasure.

As Rónán gently licks and sucks her beautiful pearl-like and pink colored clitoris, Aoife squeals more pleasingly, burning herself in that overwhelming pleasure and feeling it was ecstasy. So Rónán has decided to continue to caress her clitoris with his tongue and lips until she reaches orgasm. And when Rónán sucked and chewed the clitoris softly and gently, Aoife reached her first orgasm in her life ...

我らは愛に傾倒し、ただ一人の愛する者に自らの心を捧げん
「求める者には与えよ」とあなたが言われた通り、互いにこの身さえ尽くさん
それが罪であるならば、ああ寛大なる神よ、
日ごと、夜ごと、贖いの為にあなたを賛美せん

*Tiomnaímid féin chun grá agus tiomnaímid é
do dhuine amháin a bhfuil grá aige do chroíthe a chéile.
Chomh maith leis sin, dúirt Dia, "Tabhair é dóibh siúd a lorgaíonn é,"
mar sin caithimid ár gcorp chun a chéile a dhéanamh sona.
Ó, dia flaitiúil, Má deir tú gur peaca é,
moladh duit ó lá go lá, ó oíche go hoíche, as a fhuascailt.*







うん？



…思ったんですけど



何を？

エッチなこと



僕から
しても
良いですか？



でも僕から
手を出す分には
セーフじゃない
ですか？

後は
シスターが
嫌じゃなければ
誰も傷つかないし

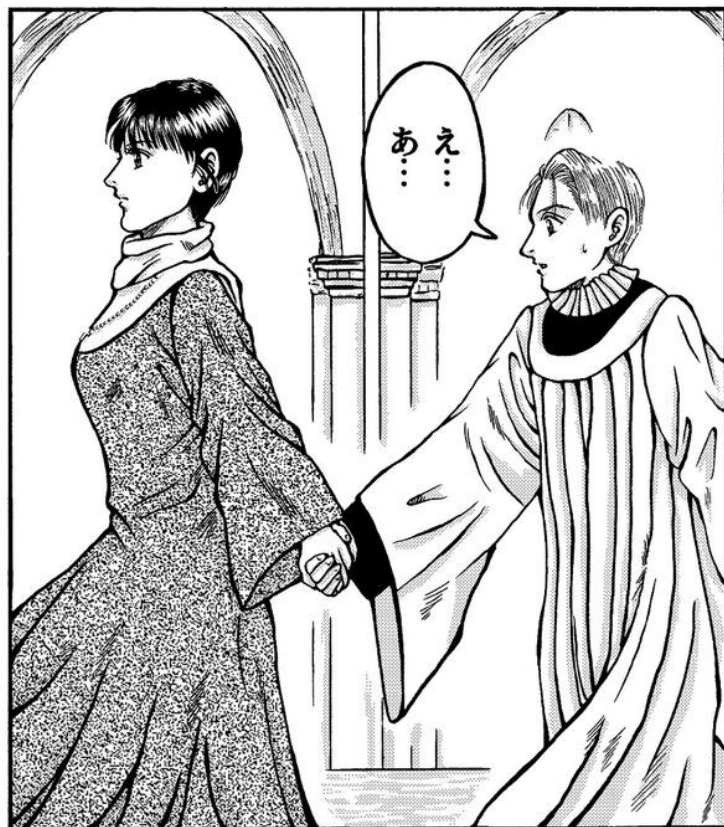


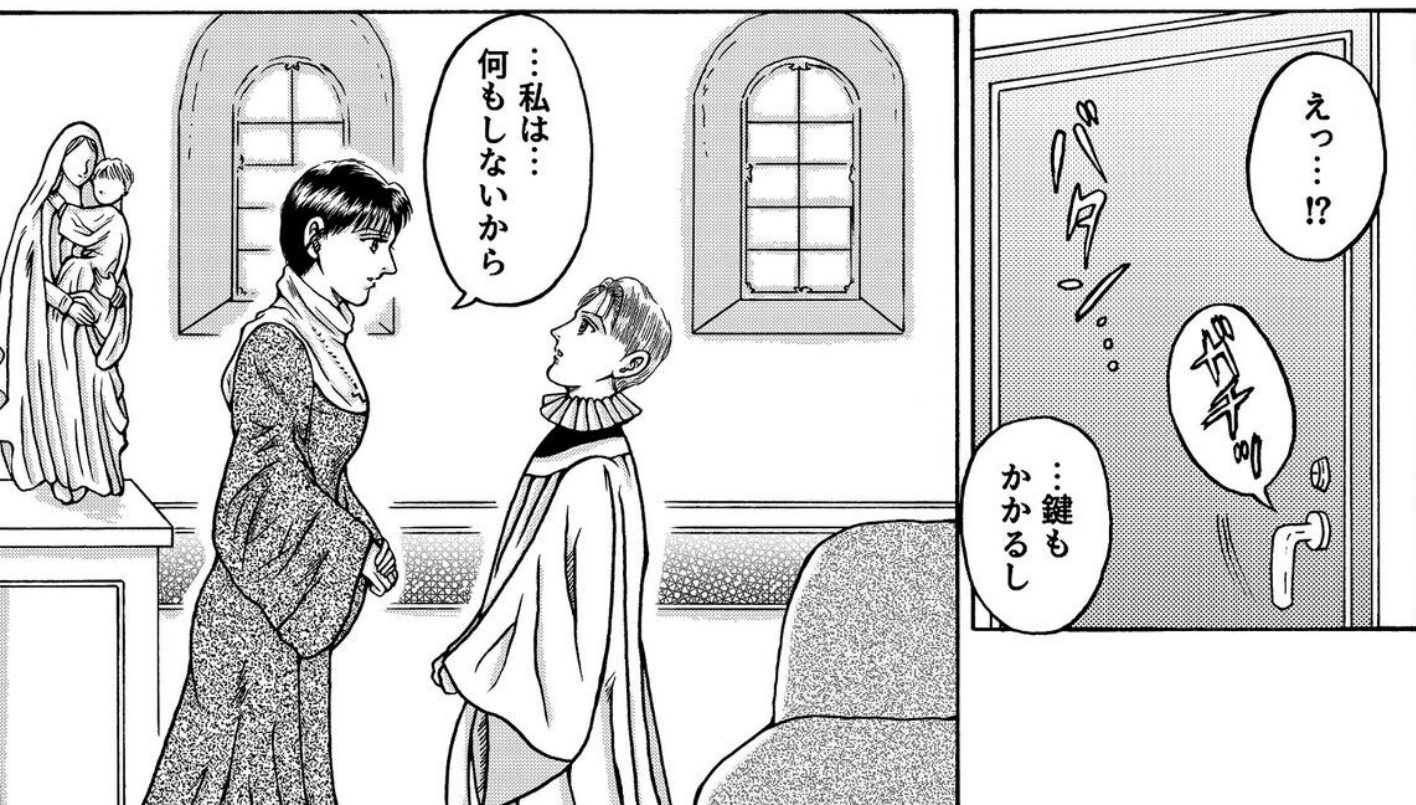
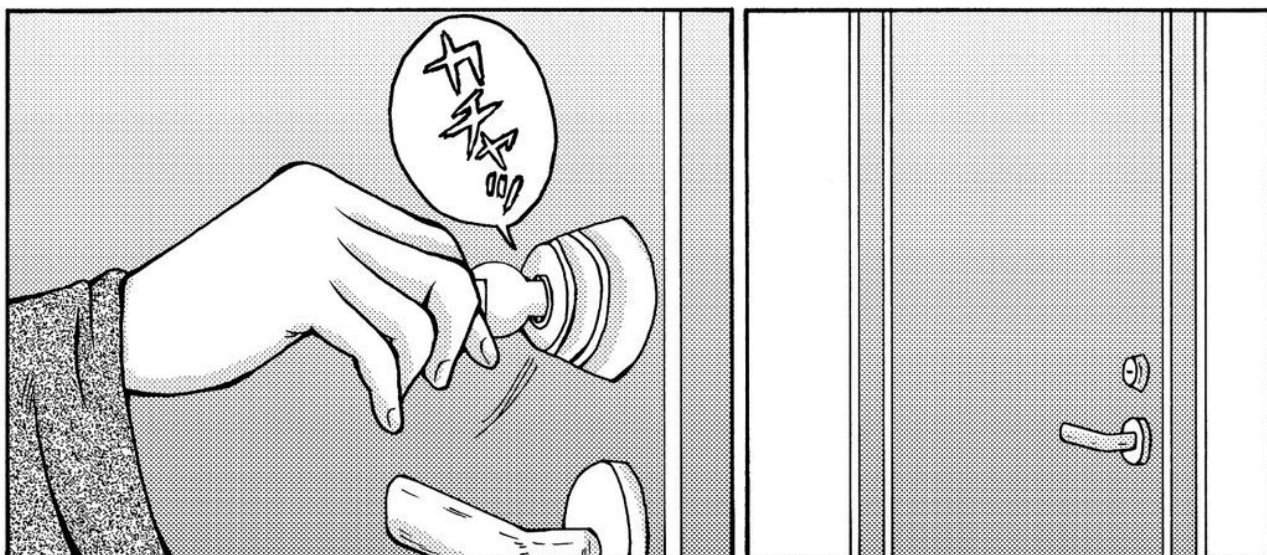
…!?

シスターから
アクシヨンするのは
未成年に手を出したり
誓願破ったりと
問題ですよ？



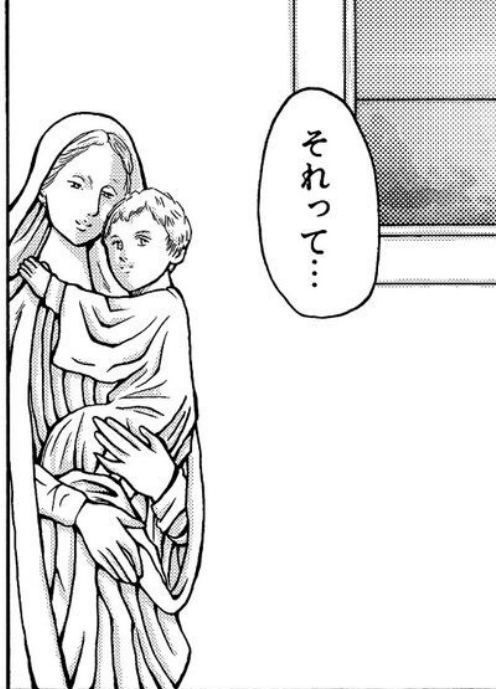
……



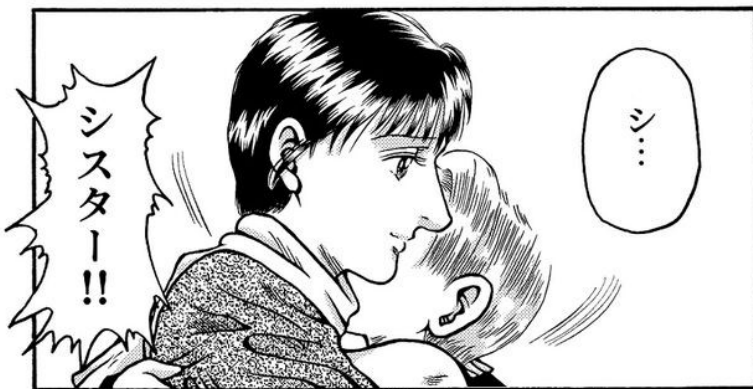




…どうぞ



それって…

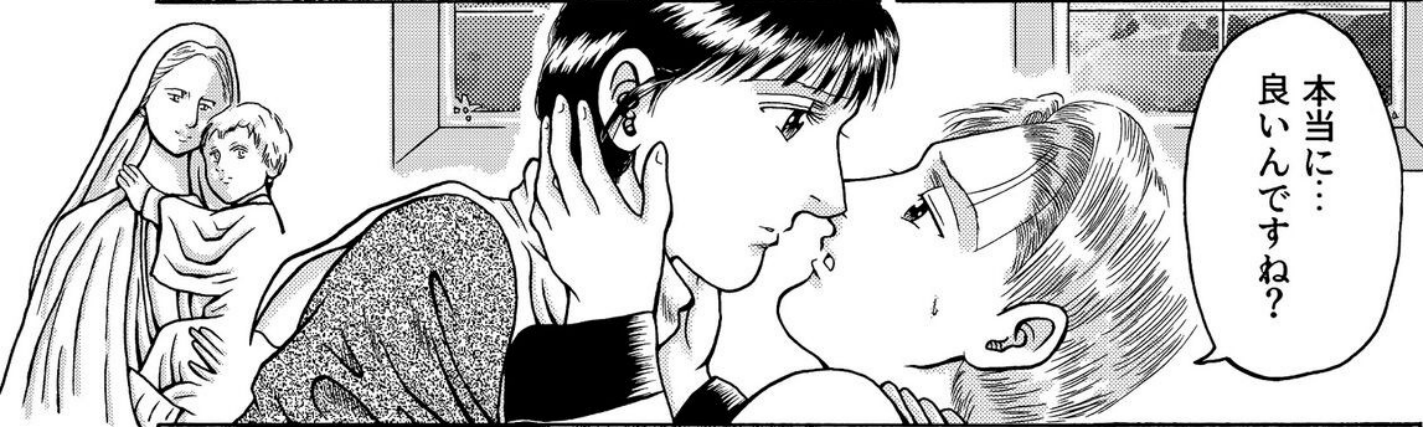


シ…

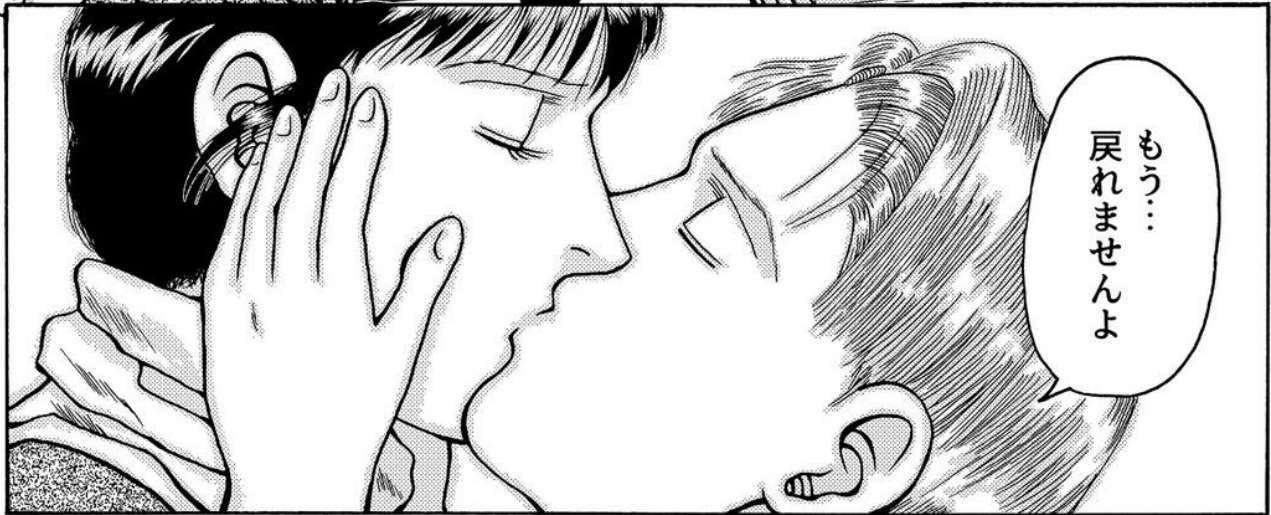
シスター!!



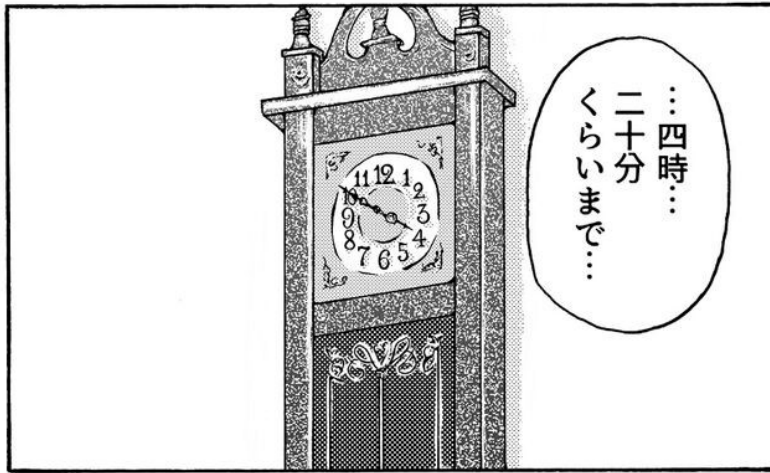
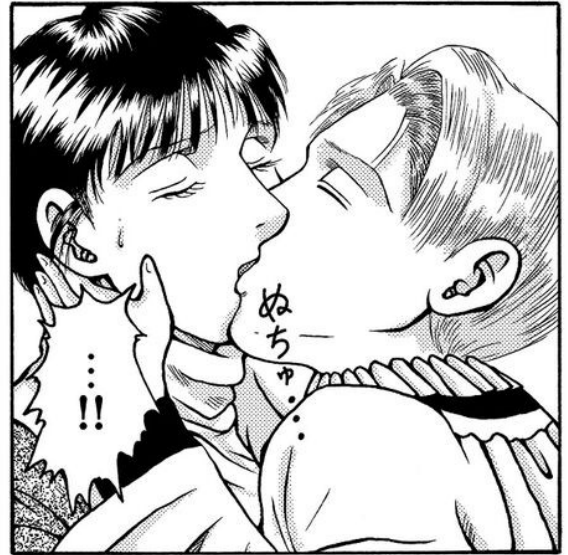
あんまり
時間ないけど…

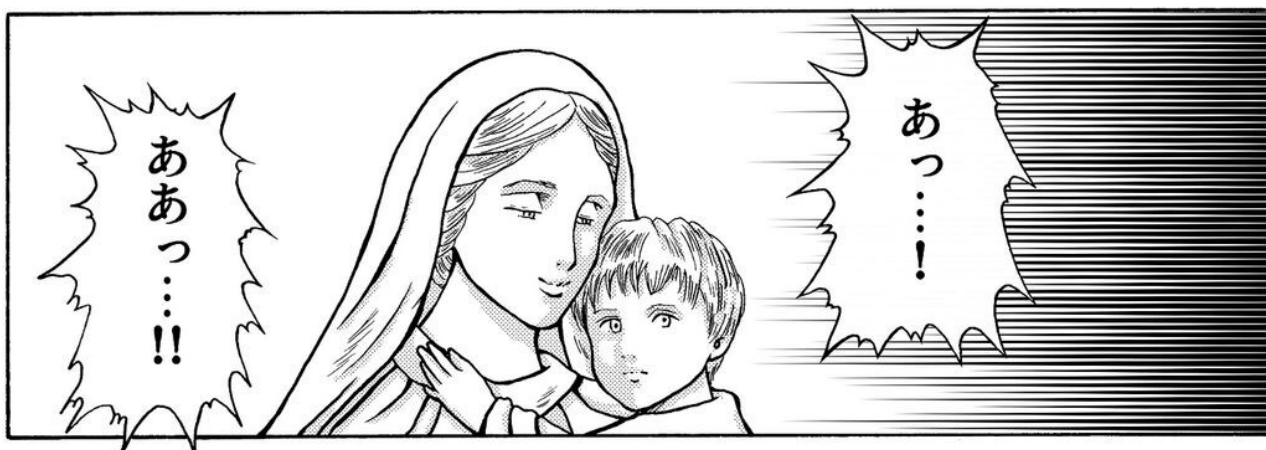


本当に…
良いんですね?

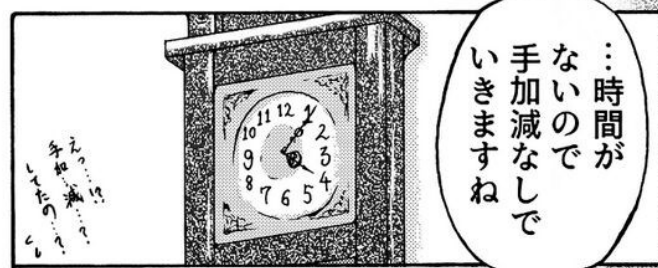


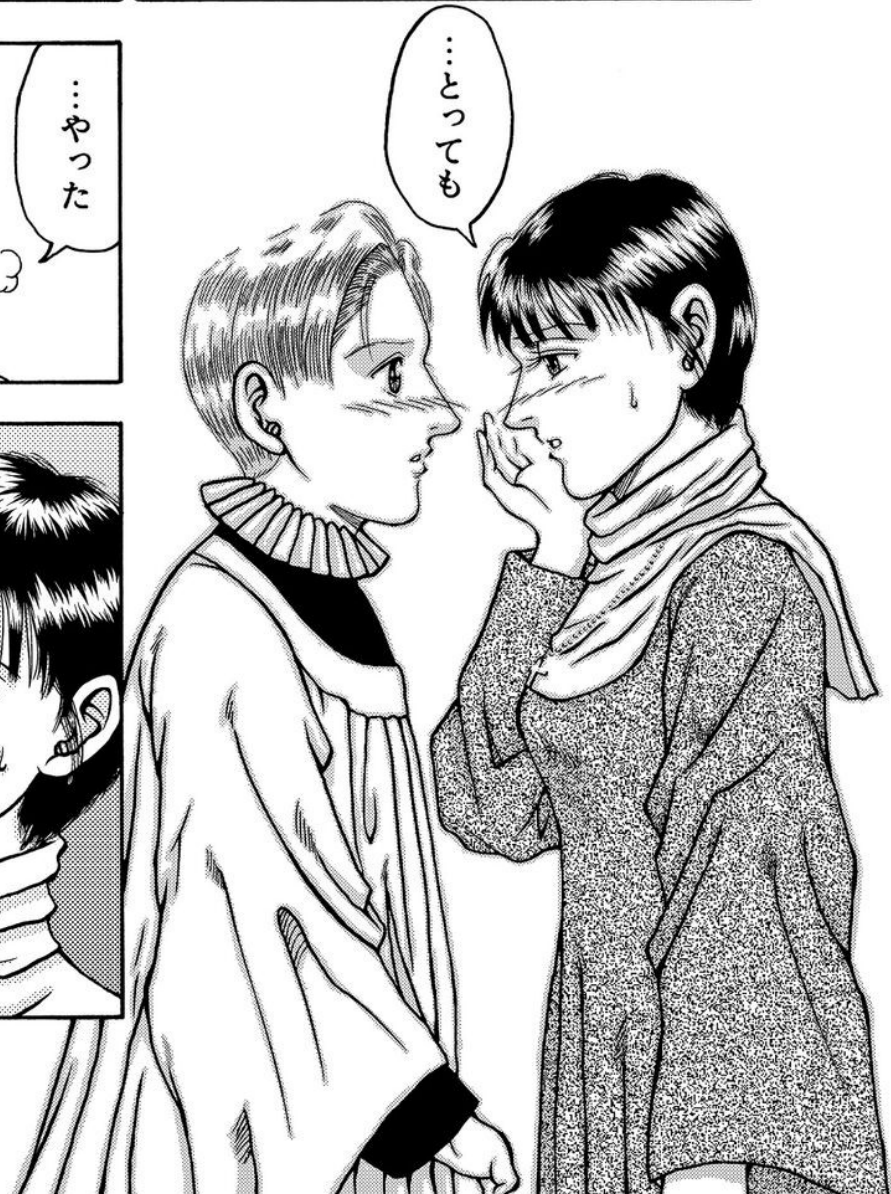
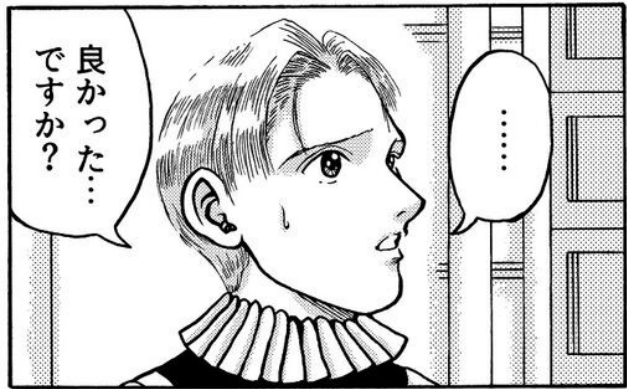
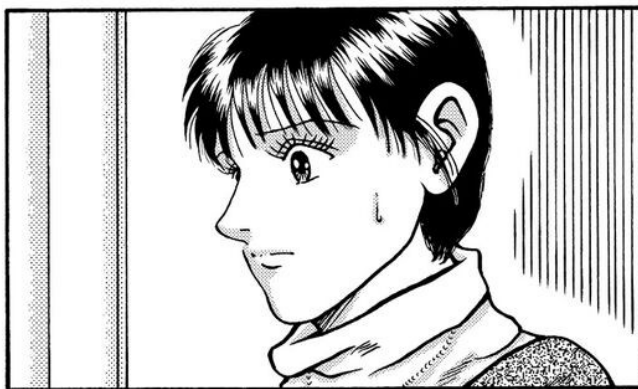
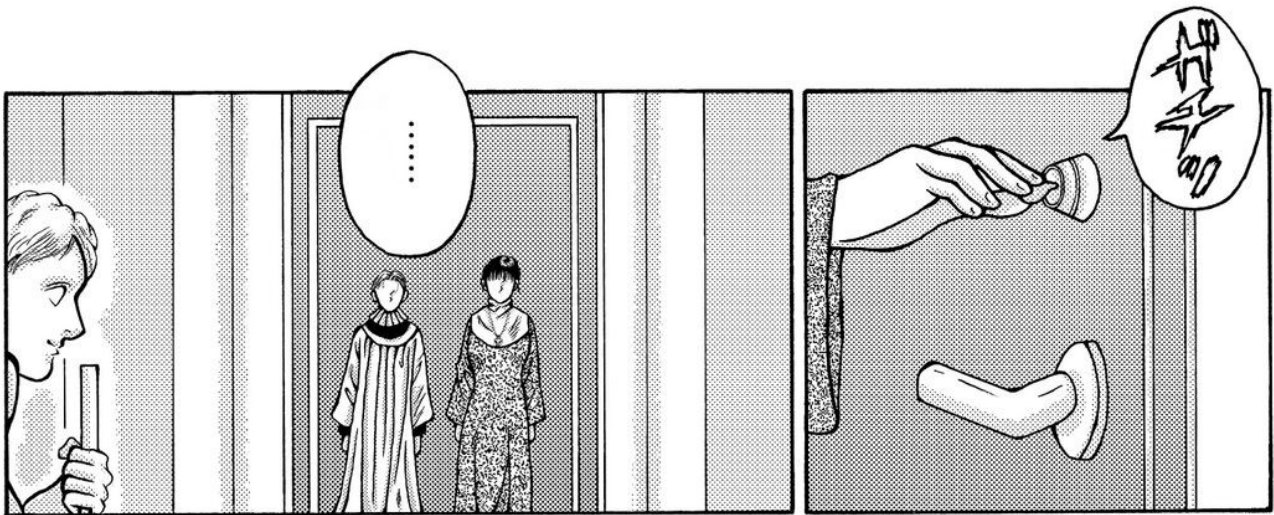
もう…
戻れませんよ

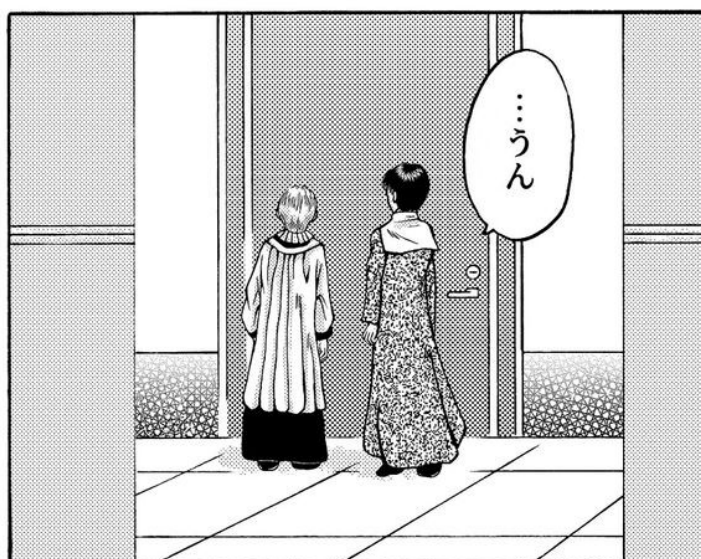


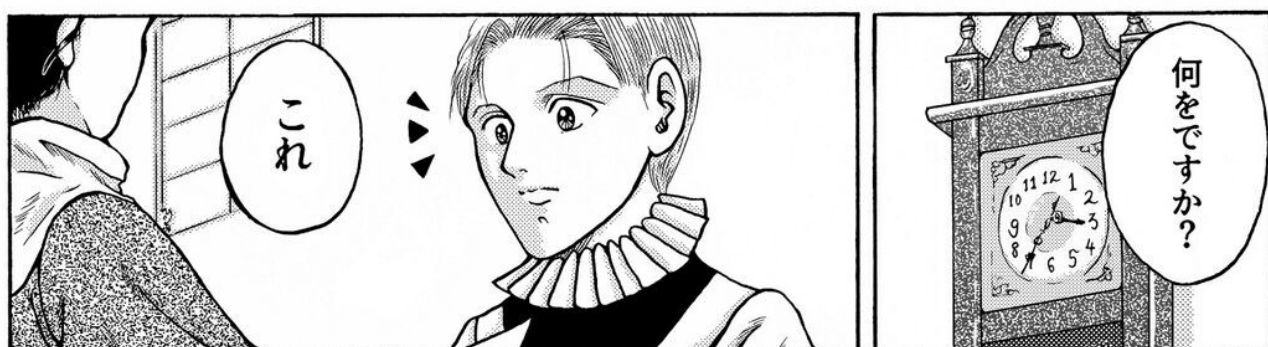


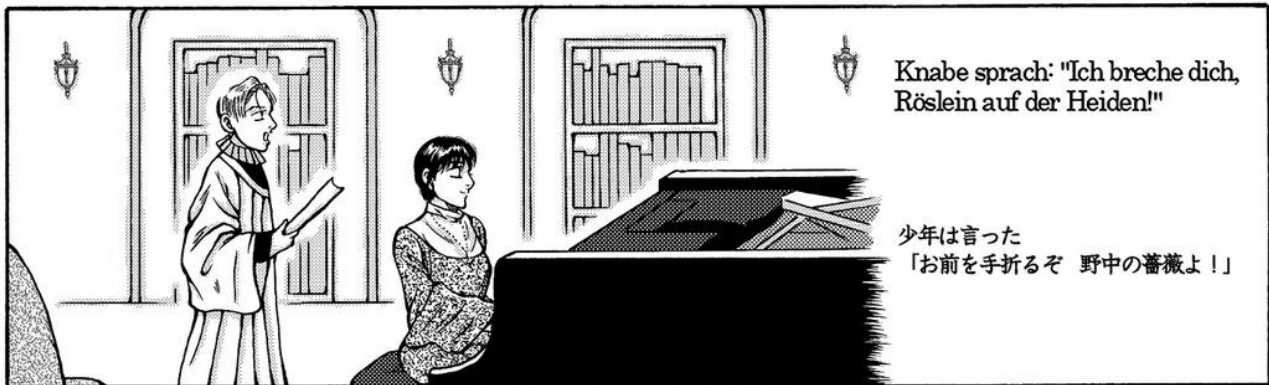
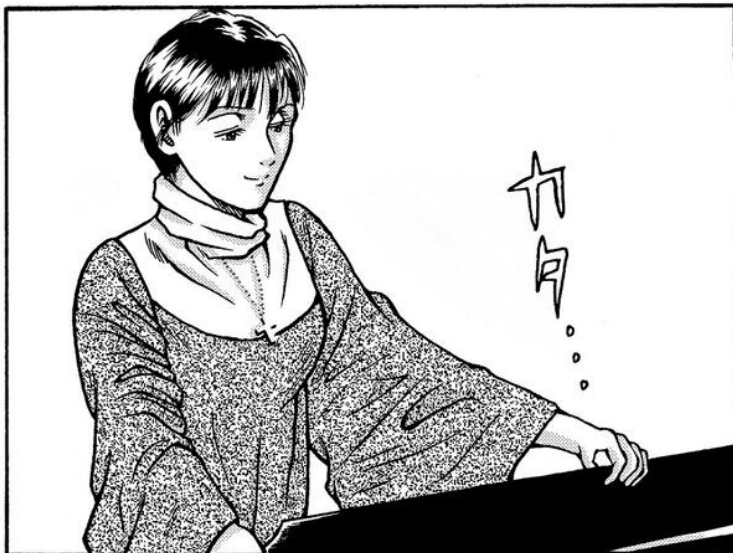










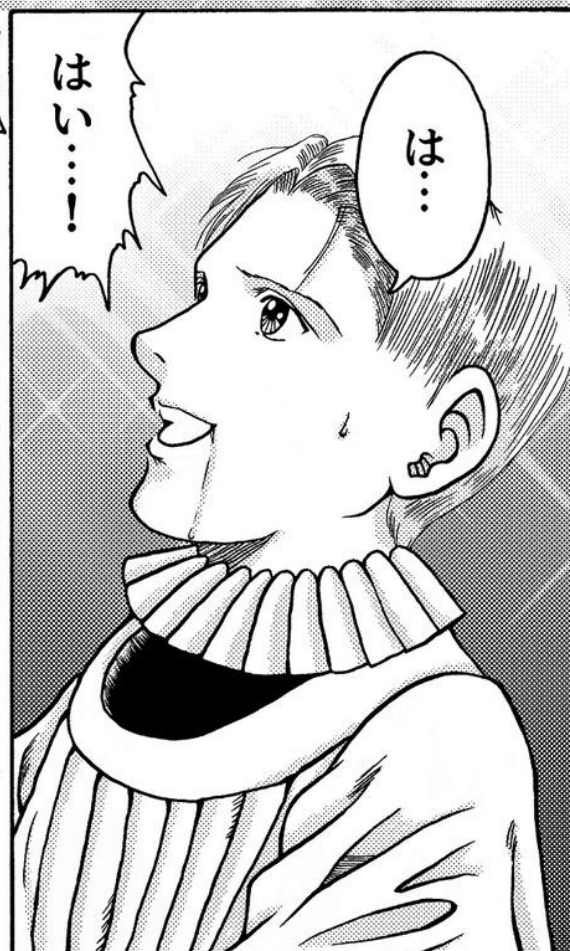


Röslein sprach: "Ich steche dich, dass du ewig denkst an mich, und ich will's nicht leiden."

野ばらは言った
「てはあなたをとげて刺します
あなたが永遠に私のことを思い出すように
ただされるままにはなりません」











An deireadh.

〈おまけ〉

二人のスペック。本編では名無しでしたが、ちゃんとキャラクター設定しました。

考えるの面白かったけど、生年はあくまで参考？です。作中の時間が進まない限り、現実的に年を取らないイメージなので、年齢は24才と13才のつもりですが…これ設定しちゃうと生々しいんだよねか！！途端にいけない感じが増す気が…；

シスター・イーファ

本名：Aoife Treasa Ní Siodhachain（イーファ・トレサ・ニ・シーハン）

生年月日：1997/5/27

性別：女性

血液型：A

身長：161cm

出身国：アイルランド

髪の色：ブラック

瞳の色：ブルーイッシュグリーン

言語：英語、ゲール語

最終学歴：大卒

家族構成：父、母、姉

職業：修道女

性格：慎重、几帳面

基本情報：あまり自覚はしていないが、美しく聡明。
生ける彫刻のような雰囲気、人によっては近寄りたがる。
話し声は穏やかで実は歌声も美しいのだが、
本人に苦手意識があり人前であまり歌わない。
10代から志願者として女子修道会に入会。
何でもそつなくこなすオールラウンダー。
ミサでは時々オルガンのピンチヒッターも担い、ローナンからは
「すべての世界を包み込むような優しい音色」と評される。
急な依頼にも少しの練習で対応することから、オルガニスト、
音楽監督からの信頼も厚い。

恋愛について：修道女になるという想いが強く、それまで興味は
なかったが未成年のローナンに急激に惹かれ、人知れず悩んでいた。
現在は表立たないよう行動には常に気を付けているが、
ある日神父志望の神学生が女子修道志願者に対する気持ちを
オープンにしている様子を見て感化され、ローナン本人に対しては
好きな気持ちを無理に隠さないようになった。
美しいものに惹かれるが、別にショタコンではない（と思っている）。

セックスについて：罪について考え過ぎる為、不安要素があることは
極力しないが（一人ですることもない）、好きな相手にされたい
気持ちは意外と強い。
実体験はローナン以外は皆無、知識は基本的なこと以外はないに
等しいが、慎重派ゆえ体の事前準備は怠らない。



〈Note〉 初期設定ではそこまで細かく考えず、ただ「抗えない修道女」ってイメージでした。でも「抗えない」って無理矢理されるわけじゃないから違うよね……と。最終的には心の中で葛藤しつつも、されてみたら意外とイイ所に落ち着きました。
絶対にどこをどうしてほしいとかしたいとか言わないけど、ローナンに「僕のせいにしていいですから、どうされたいか言って下さい」と懇願されたら、迷いつつも墮ちそうな危うさはある。投げやりになっているわけではないのに、信仰心と倫理観ゆえの制約で何もできない、何も言えないことに対し訳ない気持ちもあるという矛盾を抱えているので、二度目以降はせめてイイことはイイと伝えるようにしている。あれこれ考えながらもイケる器用な人（集中していないわけではないが…）。美意識が高く理想を体現したい想いが強い傾向にあり、かつ普段からリラックスできる腹式呼吸を意識している所為か、生粋の Irish だが端ぎ方はアクレッシブに乱れる欧米式よりもどちらかと言えば日本式に近い。暗喩で『野ばら』を持ってきたのは実際に今すぐ手折れという意味ではなく、心はもう手折られているから現状でも良ければ遠慮なくどうぞ、という意味合い。将来的に蓄積になる覚悟はできている。

ローナン

本名: Rónán Pádraig Ó Mordha(ローナン・ボードリック・オー・ムーア)

生年月日: 2008/9/12

性別: 男性

血液型: AB

身長: 156cm

出身国: アイルランド

髪の色: ペールブラウン

瞳の色: ブルー

言語: 英語、ゲール語

家族構成: 父、母、弟、妹、犬

職業: 学生(音楽奨学生)

性格: 大胆、怖いもの知らず、気遣い上手

基本情報: 大聖堂付属の聖歌隊学校に音楽奨学生として在籍。

瞳の綺麗な、美少年でもある。

歌の上手さ、歌声の美しさは群を抜き、ヘッドボリスターとして

常に最前線でミサやコンサートに臨んでいる。

真っ直ぐで隙のない歌声で、イーファからは「心に直接訴えかけるような、天上の声」と評される。

歌に向かう姿勢は真摯で粘り強く、歌詞の解釈、曲の表現についての考察も怠らない。

ミサでは英語、ラテン語、フランス語、ロシア語、ドイツ語など多言語での歌唱が求められる為、急な依頼でなければ発音もきちんと叩き込みたいと思っている。

恋愛について: 相手の意思を尊重するが、リミッターが外れたら猪突猛進。愛したい気持ちが強い。どちらかと言えば同年代女子より年上のお姉さんが好きで、清楚で何を考えているのかわからないような、ミステリアスな人に惹かれてしまう。

シスター・イーファに一目惚れするが、修道女ということで悩んだ時も。

お互いに好きだとわかった後は素直に気持ちをぶつけていく。

イーファの黒い髪と白い肌のはっきりとした美しいコントラストが好き。

セックスについて: 研究熱心、好奇心旺盛。イーファが初めてだが、知識を頼りに反応を見ながら臨機応変に対応。自分が良くなることよりも、相手が良くなるのを見て興奮する。させていたたい、という敬意も忘れない。

〈Note〉 初期設定では「ただのエロガキ(ただし歌は上手い)」でした…(ひどい)。

まあエロいことには変わりないのですが、ちゃんと相手を思いやれるのと、感謝と尊敬の気持ちも忘れない子に路線変更。

シスターが引きずりがちなので、カラッとリセットして次に進めるよう、年下ですが導いてあげる余裕も持たせました。

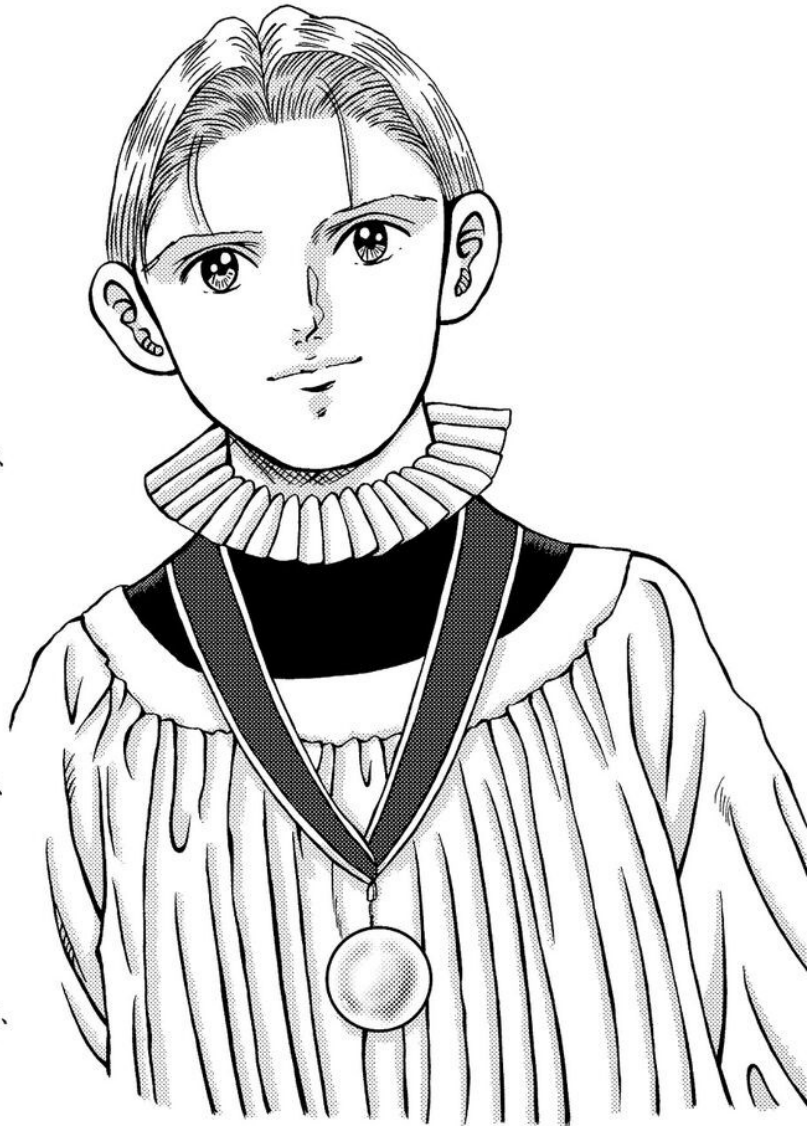
でも甘えたい部分もあるので、なでなでされながら「今のよかった」と言われちゃうとグッとくるんだろうな。

歌い手の性分なのか声フェチなところもあるので、シスターの品のある喘ぎ声を聞いているだけで実はイキそう。

どうされたいかわからないシスターの気持ちはわかっているけど、本当は聞きたくて仕方がない。

悩ませたい派なのでシスター本人の意見を取り入れたいが、聞き出すのは難しそうなので専らネットの情報が頼り。しかし男性のやり方について穿た見方をしてる為女性の意見しか信用せず、男女の動画は参考程度。いきなり舌で愛撫したのは、「指での刺激は痛い、強すぎる」という女性たちの意見をネットで見聞きしていた為。

おっぱいにも興味はあるけど修道士服の構造がややこしく、いつも時間がなくて脱がせることができないまま最短コースになるのがちょっと寂しい。



長い後書きとツッコミ

・どうも、背徳大好き Oilibhéar. (オリヴィエ) です。設定上挿入がなくてすみません…。おっぱいも見えなくてすみません…。これ以上ない禁忌な組み合わせだろ…ってことで、X rated なシスターと少年聖歌隊員が描きたかっただけです。しかしお互いに好きとわかるまで紆余曲折あったって、一体何があったんでしょうね。端折っておいて気になってしまいました。

・もともとは一枚絵でアシなシーンだけさざっと描いてみたんですけど、なぜそこに至ったかを考え出したら止まらなくてストーリー仕立てに。意味のないただのエロ漫画のつもりで描き始めたのに、結果こんなにになりました…。ちなみにタイトルの Lilíoch はゲール語で白百合という意味です。「読めねえよ！」というツッコミは承知の上で…私も正確な発音はわかりません(爆)。アイルランド北部アルスター地方のゲール語の性質からすると、“リリーア (アは吐息気味)” か、それに近い発音だとは思いますが。表紙は聖母マリアの象徴である白百合の花をシスターが聖歌隊の少年に渡すという、一見美しい感じにしていますが「純潔を奉ずる」メタファーです。実際口はギリギリセーフ(？…と彼らは信じている…) ですが、将来への暗示ということで。

・シスターには付き物とも言えるヴェールがないのは、どうせ取る、着脱時のキャラのギャップ防止、最近ヴェールをしない修道会もある、などの理由です。個人的裏設定としてミサ中や公式行事の時はずけている、みたいなのがありますが、そこまで描くと長いので…。しかも最初に考えた時点では、最後から手前7ページはなかったんですかね…。イクのはおろかわりのことすら知らなかったシスターが、その後だいたい行為にこなれて墮ちてる感じが描きたかった…訳ではなく、一度目で終わりと Lilíoch というタイトルの落とし前をつけてないなと思ったからです…。せっかく少年が聖歌隊員なのだから、音楽シーンも入れたかったので。歌詞も曲も楽譜も Public Domain だからできたことですが。

・余談ですがシスター・イーファの髪が短いのは、修道会の規則ではなく洗髪時間を短縮することで水を沢山使わないようにし、清貧の誓いを実行している為です。それ程の人でも貞潔の誓いを破るすれすれまで墮ちる、そこまでローナン少年への愛にのめり込んでいる…という強固な表現でもあります。ローナンは聖歌隊員であり『天使の歌声』であるボーイソプラノで神への賛美を歌う少年ですが、好きな人に触れたい、できればそれが相手にとって至福を伴うものにしたいという真っ直ぐ過ぎる想い故、聖女を去脱と見紛う絶頂の世界へいざなうという、聖と俗が交錯するアンビバレンスを容易に生じさせてしまいます。

・シチュエーションについては「最後までできない」「シスターからは可もしい」「全裸こしちゃうと修道服というアイコンがなくなり、設定が弱まる」という制約付きで描いた結果…一点集中で逆にエロくなったかと思います。しかしこの人達…キスとクンニしかしない(状況的にできない?) ので、同じような構図ばかり…、特にクンニは二人の顔を同時に見せたい場合、距離が離れてるので難しい…。トータルで8ページ近くやってるんだけど…；時計の示す時間については語呂合わせで9時2分か、9時20分開帳だとメタファー好きとしては面白いかなと思いましたが、朝っぱらからするにゃ激しいし、そもそも学校でのお務めだのあるだろうし、夜はお互い抜け出すの難しそうだな…ということで泣く泣くボツにしました…。

・シスターは行為の感想やどういう状態かは言うけど自分からこうしてほしい、とかは言わない(言えない) ので台詞としては抑え気味。その分上品に(?) 喘いでもらいましたが…。しかし時間がないとか言ってるのにしっかり鍵のかかる防音室を確保したり、意外と…なかな(汗)。いや、普段からあの部屋の管理担当で、たまたまピンと来ただけか？自分のキャラですがシスターは可考してるのかわからない。

・二人は少年聖歌隊員の寄宿舎と女子修道院で別々に生活していて、顔を合わせるのは基本的に大聖堂でのミサくらいだと思っています。なので致すのは莫然といつもミサ後、少年の次の授業やシスターの奉仕(※変な意味の奉仕じゃないですよ！)の合間に急いで…みたいな感じに考えていたのですが、ミサ前の方がエロいな…！？少年はシスターを絶頂に導いたその口で神を賛美する歌を歌い、シスターは果てた直後の体で神の息に参加し、祈る…。うん、良い意味で実に背徳的だしからん。

・作中ではあえて二人の名前は出しませんでしたが、失敗した気も；なので急遽雰囲気出しに入れた英語のあらすじやおまけページに載せました。本編英語版もチャレンジしたいですが、キャラが英語ではなくゲール語で話している設定なので逆に混乱するか？喘ぎ声が「Oh…」になるのも何か違う気がするしな…と変なところが気になる(´_`´)。しかし英語で「Oh God」って喘いでたら、ゲール語では「a Dhia (日本語の「あ…イヤ…」に近い発音)」になるのでちょっとソクソクするかも(変態)。…ってこれじゃゲール語版の方が日本人には馴染む(喘ぎ声だね…) じゃん！w
…と暴走してしまいましたが、他の設定を活かした派生の話もしいろいろ溢れて止まらないので、もしよろしければ今後も見ていただけますと幸いです。長々と失礼致しました。

Oilibhéar